

論点について（例）

1. 超稀頻度事故に備えた運用・設備形成の考え方

- 北本連系線のマージンを活用した緊急融通が周波数の回復に効果があったが、確保量は十分であったか。
- 大規模揚水発電所が作業停止中のなかで、一つの火力発電所に集中した運用が適切であったか。
- 現在の設備形成ルールとの整合性。

2. 周波数制御体系の在り方

- 今回のような急激な供給力の喪失に対しては負荷遮断が必要になるが、整定値等に関して見直しが必要か。
- 水力・風力などの再エネの発電機の多くが停止したが、整定値や時限を見直すことで、周波数の低下を抑制することはできないか。

3. 緊急時のオペレーションの更なる検証

- 今回のような超稀頻度事故に対するオペレーションについて、マニュアルの整備状況や訓練の実施状況について確認が必要か。

以 上